

寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No. 98 2024.9.20
発行 寝屋川市自然を学ぶ会
会長 山田 晃
事務局 寝屋川市高宮1丁目7-9
千田 正喜 宅
TEL 090-4036-0719



水辺の生きもの調査 2024.7.7 定例自然観察会 寝屋川・幸町親水公園

おさるが ふねを かきました まど・みちお

ふねでも かいてみましょうと
おさるが ふねを かきました

なんだか すこし さみしいと
しっぽも いっぽん つけました

けむりを もこもこ はかそうと
えんとつ いっぽん たてました

ほんとに じょうずに かけたなと
さかだち いっかい やりました

まどさんの詩の本 あのうちた このうちた 理論社刊

目次

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> (2) 行事報告(1) 定例自然観察会③ 水生生物
みんなの掲示板② 曾爾高原 (3) 行事報告(2) みんなの掲示板③ 伊吹山 (4) 行事報告(3) 子ども自然クラブ講座④夏休み自由研究 ⑥科学実験 (5) 行事報告(4) 自然体験学習室だより
子ども自然クラブ講座⑤⑦ ねやがわ自然塾⑥ (6) 行事報告(5) 夏休みの自然体験学習室・私の散歩道 (7) 参加・協力活動 図書館科学講座・淀川まるごと体験会
・たんぼぼ保育所・かわかつのさと(工作) | <ul style="list-style-type: none"> (8) 自然はすばらしい シダ植物 6 「ベニシダの仲間」 (9) 自然界のふしぎ アンモナイト2「アンモナイトの生活」 (10) 私の自然観察 身近な昆虫 46
「フタモンウバタマコメツキ」 (11) 図書紹介 『カニのダンス』・展示会の日程 (12) 定例自然観察会 ④四條堰下田原 ⑤深北緑地・昆虫
⑥深北緑地・どんぐりウオッチング
みんなの掲示板 ④シダの観察 ⑤コウノトリの郷公園
野外活動センターの環境整備②③ 編集後記 |
|--|--|

第3回自然観察会 水生生物 7月7日(日) 参加者48名(内子ども22人)

～子どもたちの歓声が！～



投網を打つ！



コオイムシ

コロナ禍や雨での中止が続き、5年ぶりの観察会でした。朝から天気には恵まれましたが、暑い中での観察会でした。

あいさつの後、仕掛けて置いたもんどりを上げてみると残念ながら魚が入っていませんでした。この後、講師の新城さんが投網を投げると、オイカワやモツゴなど沢山の魚が入っていて大喜びでした。

その後、子どもたちはたも網を持って、川の中の生きもの探しに挑戦しました。「小さな魚が捕れたよ」「エビが取れたよ」「ヤゴがいたよ」と元気な声が響いています。また、水につかって気持ちよくしている子も。時間が来たので、惜しみながら上がりました。

水槽には、モツゴ、カマツカ、オイカワ、ヨシノボリ、ドジョウ、アメリカザリガニ、ヌマエビ、カダヤシ、ヤゴ、アメンボ、コオイムシ等たくさんの捕れた生きものが入っていて、新城さんの魚を見せながらの説明に、子どもたちは楽しそうに聞いていました。



魚とるぞ！



カマツカ珍しいよ！

第2回みんなの掲示板 ^{そに} 曾爾高原と ^{こおちだに} 香落溪 6月25日(火) 参加者28名

～楽しかった！～

大島 真砂代



天狗柱岩

初めての曾爾高原ツアー。でも、6月25日って梅雨の真っ最中。雨になりませんようにとの願いは、晴れ男と晴れ女のおかげで見事にかないました。ちょこっと傘も差しましたが、強烈な日差しに悩むこともなく、みんな元気に一日過ごすことができました。

最初にバスが停まったのは、青蓮寺ダムの堰堤です。広いダム湖には、カワウがのんびり。下流を眺めると深く切れ込んだ谷が見渡せました。青蓮寺川沿いをバスが上流をめざすと香落溪の絶景が車窓に広がりました。川の両側はまるで斧で立ち割ったような柱状節理の岸壁がそそり立ちます。紅葉谷では、天狗柱岩という柱状節理のすぐそばまで行くことができました。1500 万年前の火山噴火でできた室生火砕流堆積物の表面をなでることができて、大感激のひとつでした。

曾爾高原では、一面のススキが出迎えてくれました。3月の始め頃に山焼きをするそうで、緑美しい優しい表情のススキです。ススキの生える斜面には10頭ほどの鹿がのんびり草を食み、建物の屋根ではホオジロが『一筆啓上仕り候』といい声で鳴いていました。

昼食後、お亀池の周囲の遊歩道を散策しながら、花や昆虫の観察をしました。まるでマムシが鎌首をもたげたような仏焔苞(仏炎苞?)をもつオオマムシグサ、水の上を飛び回る黄色いイトトンボ、可愛いノアザミの花にとまるウラギンヒョウモン。



お亀池の散策



ハラビロトンボ

オオマムシグサ

カキラン

そして、丘に登る階段の脇にひっそりと咲いていた憧れのキンラン！と思ったけどカキラン！風に揺れるチガヤの若い花芽をガムのようにかんだという思い出話もお土産に、帰りのバスに乗りました。ナンバンギセルは見つからなかったけど、楽しい楽しい高原の一日でした。

第3回みんなの掲示板 伊吹山高山植物と山室湿原 7月23日(火) 参加者20名

～網に守られて～

米原から関ヶ原に向かう車窓からの伊吹山はシカの食害か、山肌が見えて痛々しく見えました。

山頂駐車場で我々を迎えてくれたのは可憐に咲くカララナデシコでした。

登山道西コースの中腹あたりではネットを張るなどの保全活動のおかげで見事なお花畑が観られました。ルリトラノオ、シオガマガク、ミヤマコアザミ、キリンソウ、サラ



観察の様子



山室湿原入口

シナショウマ、シモツケソウ等々。山頂付近ではイブキフウロ、ハクサンフウロ、山頂ではイブキジャコウソウの群落を今年もしっかり見つけました。

山室湿原ではサワアザミやカキラン、モウセンゴケ等が見られ、ハッコウトンボも発見。楽しみにしていたサギソウは8月中頃以降だそうで来年が楽しみです。

自然保護に携わっている方々に感謝です。

参加者の感想 ～感動しました～

下田 勝子

車酔いもなく、無事に伊吹山山頂駐車場に着き、迎えてくれたのは清らかな花のお出迎え。下は花畑、上では上手なウグイスの鳴き声、お見事。花の名前はよく知りませんが、こんなに沢山のお花畑になっていたとは。昭和40年代に登った時よりはるかに整備され、お花畑も広く種類も多く驚きました。金網と石ころの道、時の流れを感じました。ここ10年ばかり山歩きは遠のいていましたが、ムクムクと、また歩こうと、元気を頂きました。

若い時は登ることに気を取られ、山には木があることを忘れていました。この歳になって、車窓から見える大木、何年も生きながらえている立派な木、すごい幹、感動しました。人生、再確認させてもらいました。もう少し欲張らせてもらいます。

ありがとうございました。



カララナデシコ

ルリトラノオ

キリンソウ

イブキフウロ

イブキジャコウソウ

モウセンゴケ

夏休み子ども自然教室 「夏休みの自由研究のヒント」を見つけよう

□子ども自然シリーズ講座④

7月13日(土) 子ども22名(他27名、摂南大4名)

①生きもの大すき

～生きものには
ふしぎがいっぱい～

講師の山本さんが家で育てている虫たちの話です。虫が成長していく様子など、問題を出しながら、子どもたちと楽しくやり取りしながら進められました。

アゲハチョウ、テントウムシ、カマキリなどの成長の様子が手に取るように分かりました。



つかまえた!

②身近な樹木の楽しい観察

木村さんが身近に見られる数種類の葉を持って来られました。子どもたちと一緒にアカメガシワの葉を紙にこすり付けたり、イチョウの葉をピカチュウに、ヤツデの葉をうさぎに細工して遊びました。センダン・ナンキンハゼ・コノテガシワの実の切断面を見て楽しんだり、トウネズミモチの葉がメモ帳になることなどを知りました。



お面を作りました

③楽しい工作

～トンボと
テントウムシ～
スタッフがあらかじめ用意しておいた枝にトンボとクワガタムシを貼りつけます。木の下にはテントウムシの赤い胴体があり、子どもたちはそこに好きなようにテントウムシの模様を描き出来上がりです。



テントウムシの模様は?

□子ども自然シリーズ講座⑥

8月3日(土) 子ども21名(他26名)

①科学実験

～見れども見えず～

人間は、何度も見ているものでも正確に正しく答えられないということです。最初に、アリの絵を描かされました。子どもたちは困っていましたが、思い思いのアリの完成です。次は、ダイコンのひげ根の生え方、コンセントの2本の穴、信号機の赤の位置月の満ち欠けなど一つ一つ問いかけながら、解決していきました。周りにいる大人でも、「あれ! どうだったかな?」と思うようなことばかりでした。子どもたちは講師の西村さんの話に耳を傾け、熱心に聞いていました。



キツツキが動いた



ダイコンのひげ根は

意識的に見ないと、正確に覚えていないことが分かりました。

②楽しい工作 ～ドラミングキツツキ～

紙コップと磁石を使った工作です。紙コップを木の幹に見立ててキツツキを貼りつけます。平板磁石を上下させると、キツツキがついているように見えて完成です。

みんなで作る自然資料室だより

猛暑日が続き、熱中症警戒アラートが連日発令されていましたが、学習室は多くの子もたちが利用していました。

□子ども自然シリーズ講座

⑤水鉄砲づくり 7月27日(土) 子ども16名(他22名)

竹の筒、押し棒、スポンジ、布等がセットにして用意されています。筒の先に水の出る穴を慎重にあけます。次に、押し棒の先に竹串2本を刺し、スポンジを巻き付けひもでくくりつけ固定します。それに布を巻き付け太さの調整をします。最後に布でおおいひもでくくりつけピストンの完成です。ピストンを押し込んで、引くと「ポン」といい音がして大喜びでした。



結ぶのむずかしいな！

子どもたちは、駐車場に仕掛けてある的に向かって、水を発射し、濡れながら楽しんでいました。子どもたちから、「とばして楽しかった」「穴をあけるのやひもをきつく締めるのがむずかしかった」などの感想がありました。

⑦水辺の生きもの 9月7日(土) 子ども12名(他18名)

学習室の机には、クサガメ、スッポン、タウナギ、カエルなどの生き物の水槽が並んでいます。講師の新城さんが持って来られました。プロジェクターを使い、寝屋川市の魚の話です。35種類の魚類が確認されています。フナは雄がいなくてクローンで増えていると



タウナギをさわった！

か、タウナギは最初はメスで大きくなるとオスにかわるとかの話。次に、卵を守る身近な生き物では、ほとんどが自然任せですが、コオイムシのようにオスが子を守るという話。カメの話に続いて、エビ・カニの話もされ、子どもたちは熱心に静かに聞き入っていました。「タウナギを触ってみたら、にゆるにゆるしていたけど、思ったより硬かった」という感想がありました。

□ねやがわ自然塾 (第7期)

○第6回講座 9月12日(木) 自然体験学習室 「昆虫のふしぎ」 ～虫たちのふしぎな生活と役割～

①どこが違うの？バッタとキリギリス

触角の長さ・耳の位置・産卵管など

②虫の役割は？

送粉者・他の動物の栄養源・分解者など

③工作 (午後)

シュロのバッタ・エノコログサのうさぎ



ガイドブックを見ると！

□夏休みの自然体験学習室

今年の夏休みの学習室は換気のことはもちろんですが、危険な暑さということで水分補給を気にしながら予定通り進められました。

夏休みの活動日は7月21日から8月25日までの27日間で、ほとんど毎日午前午後とも親子で賑わっていました。予定していたイベントは例年どおりの賑わいでした。その他の日には、どんぐり工作、牛乳パックの工作、木工工作など全78種類もの工作をして、延べ358名の子どもと229名の大人が楽しみました。「実家に帰ってきたのでここに来て、楽しみました」という親子連れもおられました。以前と比べると、夏休みの宿題で工作が少なくなっているようですが、多くの親子が楽しいひと時を過ごしているように見えました。



どんぐり工作



ていねいに仕上げました



屋台を作りました

私の散歩道

山田池を歩いています

川口 盈子

酷暑だったこの夏、私は運動不足を補うため姉と山田池を歩いています。車で20分ほど、北駐車場から一周します。

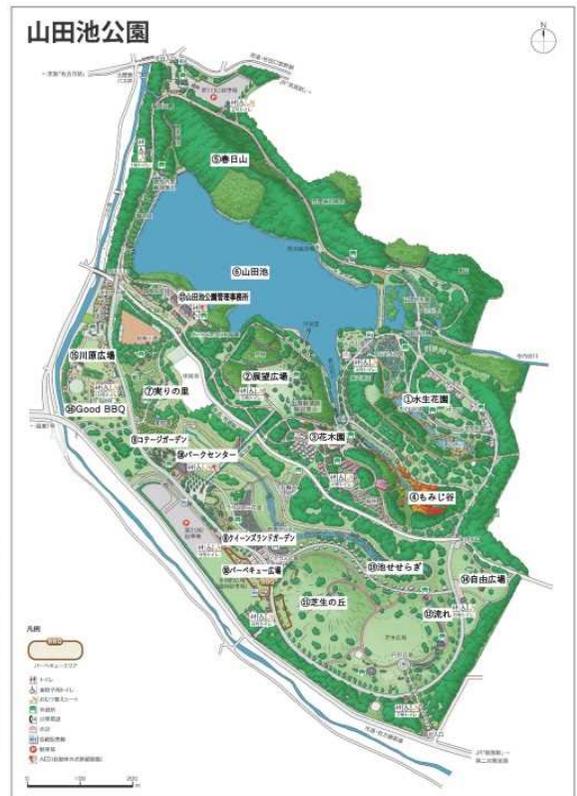
この公園は木陰が多く直射日光をさけることができます。池を通してみる景色はどのエリアからも最高、サルスベリがとてもきれい!! 南のエリアは毎回「ここはどこ?」っていうくらい全く違う景色が広がります。

「オニグルミは大きくなったかな?」確かめながら花木園へ。

今年はアケビもブドウもキウイも全く出来ていません。そして私は汗でびしょり!!でも気分は爽快!1 そんな散歩道です。



オニグルミ



参加・協力活動

□図書館行事 科学講座

「でんきがつくもの な～に？」 7月28日(日) 子ども16名(他31名)

西村さんが講師となり、乾電池と豆電球で回路を作り、回路の間に物を入れて豆電球が点灯するかの実験です。釘、1円、5円、10円、100円、1万円札、銀色の折り紙、鉛筆の芯など、子どもたちに予想させながら、進められました。一通り終わった後、子どもにもそれぞれ同じことをお金以外の物で確認させます。回路に釘、はさみ、ピンセット、水道管など身近にあるものをはさんでは、「電気がついた。つかない」と確かめていました。最後に、人間でも電気が通るかの実験です。参加した全員が手をつなぎ、最後の人が握手すると電気がつき、みんな大喜び。

おみやげとして、早変わりボックスを手作りしました。



電気がついたよ！

□淀川まるごと体験会

9月8日(日)

参加者約150名

協力者5名

～どんぐりペンダントやぶんぶんゴマで楽しみました～

午前9時から12時、淀川河川公園点野野草地区わんど周辺で、例年8月に行われていた行事ですが、暑さが続くこともあって、今年度は9月に実施されました。

まだ暑さの残る中、Eボートやカヌーなどの水辺体験を軸に、ブランコ遊び等自然遊びも楽しみました。本会はどんぐりペンダントづくりやブンブンゴまづくりを担当し、秋の野草の名前しらべも実施しました。暑かったけれども楽しい行事となりました。



ブンブンゴま うまく回った

□たんぽぽ保育所 ～くさむらようちえん～

7月18日(金) 園児26名 協力者3名

保育所内の草むらで虫探しをしました。園児たちは虫が大好きで、一生懸命虫を探し、楽しんでいました。

体育館にもどって、見つけた虫や気に入った虫を発表したりしました。その後、「セミふしぎクイズ」等があり、セミやバッタの生態を学びました。

「チョウチョみつけてよかった」「虫探し楽しかった」などの感想がありました。



むし いるかな？

□かわかつのさと ～あきまつり～

9月14日(土) 参加者約70名 協力者3名

障がいのある人たちが働く「かわかつのさと」のあきまつりに、カサブクロケットとカスタネット人形作りで参加しました。

牛乳パックを切り抜いたものに絵を描き、手にペットボトルのキャップを付けると可愛いカスタネット人形ができて、カチャカチャ鳴らしたり、作ったカサブクロケットを飛ばしたりして、楽しんでいました。



どんな顔にしようかな？

自然はすばらしい シダ植物シリーズ6

ベニシダとその仲間たち

天野 史郎

ベニシダの仲間には、たくさんの種類があります。ここでは北河内で普通に見られるオオベニシダ、トウゴクシダ、サイコクベニシダの3種を紹介します。

サイコクベニシダは葉がやや硬くて大きく光沢があり、葉柄の鱗片は多く毛むくじゃらで、一見してベニシダとの違いがわかります。和名に西国とあるのは、国内で最初に採集されたのが徳島県であったことによるそうですが、関東にも分布します。サイコクとして発表されましたが、サイゴクと表記している図鑑も多いです。

オオベニシダは、葉はあかるい黄緑色で質はベニシダに比べややうすく、羽片は深く切れこみ、柄は明瞭です。鱗片は少なく、包膜は白色で芽立ち時は緑色です。ベニシダより特に大きいというわけではないのですが、葉の幅が広いところから大きいと感じたのでしょうか。ベニシダとの区別が比較的わかりやすいシダです。

トウゴクシダは、東国シダではなく東谷シダで、愛知県の東谷山にちなみます。しかし基準産地は京都府です。葉は幅広で羽片は深く切れ込み、多数の鱗片をつけます。ベニシダにくらべ芽立ちが遅く、包膜は白色で芽立ち時は緑色です。一方ベニシダは包膜も芽立ちも赤色で、この時期に見ると違いがよくわかります。

ベニシダとトウゴクシダの変異は連続しており、しばしば中間的なものがでてきて、区別に悩むことがあります。同一のものでも、ある人はベニシダとし、別の人はトウゴクシダとするというようなことが起こります。これは片方が誤っているわけではなく、各人の基準にずれがあるということです。このような場合は、自分なりの判定軸をもつことが大切です。ベニシダだ、トウゴクシダだといってもシダにとってはあずかり知らぬことで、人間が分類するために勝手に名前をつけただけです。両者とも無配生殖種なので、その境界が分かりにくいのは仕方のないことです。ベニシダのドロ沼にはまりたくない人は、少々の違いにこだわらず、おおらかな心でベニシダとひとまとめにしておくのも、一つの態度でしょう。かつてはベニシダだけでも、ホソバベニシダ、トガリバベニシダ、サンカクベニシダなどのシノニム（同物異名）があったのですから。



ベニシダ



トウゴクシダ

葉によるシダの検索図鑑より



オオベニシダ



サイコクベニシダ

横浜の植物より

自然界のふしぎ

自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「三葉虫のふしぎ1～4」に続いて、今年度は「アンモナイトの不思議1～4」をお届けしています。

アンモナイトの不思議2

「アンモナイトの生活」

西村 寿雄

前回ではアンモナイトの名の言われと姿・形をお知らせしました。中生代恐竜のいたころアンモナイトはどんな生活をしていたのでしょうか。

恐竜にたいしてアンモナイトは海の王者でした。アンモナイトは巻貝のようですが、貝の仲間ではありません。イカやタコが殻をかぶっていたと思えばいいでしょう。

アンモナイトはいつごろから出始めたのでしょうか。じつは、中生代よりもっと昔、デボン紀(4億年前)だそうです。最初は海をほそぼそと泳ぎまわっていました。

アンモナイトの化石は中生代の地層からは、日本でもたくさん出ますがアルプスの山の上でも出ます。前回にも書きましたが、レオナルド・ダ・ヴィンチが「貝の化石がどうして山の上から出るのか」と化石の謎を問いかけた話はよく知られています。大陸移動の前はテチス海にはたくさんのアンモナイトが棲んでいました。その海底が大陸移動によってヨーロッパアルプスが盛り上がったのです。おかげでたくさんのアンモナイトも持ち上げられました。壮大な話ですね。

アルプスの地層は主に石灰岩ですので、当時からアンモナイトは浅い海底に棲んでいたことになります。日本でも、アンモナイト化石は太平洋の

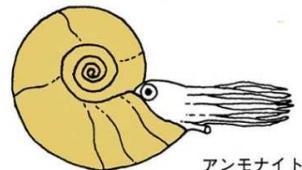
浅い海底だったところ(付加体)から出ます。どうもアンモナイトは浅い海を生息域にしていたようです。当初アンモナイトは浅い海にたくさんいて魚類の餌食になることも多々ありました。そこでアンモナイトは身を丸くして殻をつけ魚の餌食になることを防ぎました。ときには異状巻にして魚と対抗しました。だんだん海水温が高くなってきて中生代(1億年前)にはアンモナイトは大きく個体数を増やしました。そのとき、大きな異変が地球に起きました。

为什么呢。

地球に隕石が衝突して地上は大混乱になりました。

気候も変動して地上で活動していた恐竜はほとんど絶滅しました。海水の酸素も欠乏し温度も下がり出して、とうとうアンモナイトもことごとく命を落としました。

つぎはアンモナイトの進化についてお話ししましょう。



アンモナイト類
『福島県立博物館』



パンゲア(大陸)

『アンモナイトは神の石』



異状巻きアンモナイト アンモナイト類



中生代のテチス海の海中
『アンモナイトは神の石』

私の自然観察

身近な昆虫 46

—フタモンウバタマコメツキ—

高本 憲二

あんなにうるさかったセミの声もだんだん小さくなり、代わりに草むらの虫たちが騒がしくなってきました。玄関の網戸に見慣れない虫が張り付いていました。コメツキムシの仲間のようにです。



フタモンウバタマコメツキ

死んだふりをする
フタモンウバタマコメツキ

網戸に張り付いていた大きなコメツキはフタモンウバタマコメツキ。手を近づけるとパッチンと衝撃音を立てて跳んで行った。跳んで行った先の地面を見ると、裏返しになって死んだふりをしていた。

コメツキムシは触ると擬死といって死んだふりをすることが多い。そのまま見ているとパチンという音とともに勢いよく跳ね上がります。コメツキムシの胸部にはレジリンというゴム状のたんぱく質があり、これを一気に伸ばして跳ね上がります。

私たちは筋肉を使って運動する力を生み出していますが、そのエネルギーの半分は熱として消費されるため効率がよくありません。どんなゴムより効率の良いレジリンは跳躍の得意なノミやバッタの後ろ脚にもあり、あんなに高く跳び上がることができるわけです。レジリンの効率は90%以上、ノミの場合は98%といわれています。

テントウムシやゾウムシなど昆虫の中にはこのコメツキと同じように死んだふり（擬死）をするものが多いです。なぜこれらの虫たちは死んだふりをするのでしょうか？

虫たちの捕食者となる鳥やカエル、トカゲやカマキリは動く生き物を狙っています。外敵から身を守るためには逃げるより死んだふりをして動かないほうが食べられる確率が低くなります。そこで彼らは敵が近づいたり触られたりすると瞬間的に手足を縮めて死んだふりをするわけです。

名前の由来ウバタマとは、京都の伝統的なお菓子でこしあんを求肥に包み砂糖をまぶした餅菓子や、あん玉につや寒天や羊糞をコーティングしたお菓子のことで、この色に似ているので烏羽玉と名付けられたそうです。

フタモンウバタマコメツキ *Cryptalaus larvatus* コメツキムシ科

分布は局所的で数は少ない。触角は赤褐色～暗褐色で、体は灰白色。前翅中央の縁に半円形の茶褐色紋があるのが特徴。日本固有種。



烏羽玉

図書紹介 ～こんな本が出たよ～

『カニのダンス』 ちいさなかがくのとも 6月

越智典子/ぶん 伊藤知紗/え 福音館書店

ダンスをするカニがいるという低学年向けの楽しいお話の本。汽水域の干潟のカニの多くは爪を大きく動かすことはよく知られている。その動きをユーモラスに語って興味をひきたてている。

まず、たくさんのカニが爪を立てている干潟の絵が出る。あっちにもこっちにも。次ページではチゴガニがアップされている。白い〈両手〉を広げているよう。

〈手〉を前に出したり上げたり下げたりしている。「いっしょに おどりましょう。」と書いている。こんどはハクセンシオマネキが登場する。こちらは〈片手〉が大きいカニ、まるで手招きをしているよう。次ページではその動きがよりリズムカルに「こっちこーい」と手招きをしている。次はヤマトオサガニ。こちらはちょっとおっとりおどっているよう。次はコメツキガニ、こんどは砂粒を口に入れてはポイ。砂つぶに着いた海藻や有機物を食べてるらしい。両方のハサミを広げたり上に上げたり、また砂をつまむ、この動きもダンス。

それぞれのカニがせわしなく手を動かしていると、突然黒い影、いちもくさんにカニたちは巣穴へ。お見事。空の黒い影が去るとまた砂から出てきてダンス。

この本は、干潟のカニたちの動きがダンスとしてユーモラスに描かれている。

このシオマネキについては以前に武田正倫/著 金尾恵子/絵『大きなはさみのなぞ』（文研出版）に出ていた。こちらは小学校高学年ぐらいから読める科学読み物で、それによると白い扇のような〈手〉で招いているハクセンシオマネキは「白扇潮まねき」とも名付けられているらしい。しかも〈手招き〉しているのは、たんにダンスではなくメスを呼び込むためのディスプレイ。カニのなかでも、シオマネキは陸上生活も長くアカテガニに似て進化しているカニとのこと。

『カニのダンス』は低学年児にあわせて楽しい読み物になっている。

2024年6月1日 400円

<西村 寿雄>



お知らせ

展示会の日程が決まりました

○2024年度 展示会「私の自然観察」

日程：2025年2月19日(水)～25日(火)

会場：アルカスホール 1階ギャラリー

作品の募集

「自然」に関わる写真などをお寄せください。

詳しくは、次号でお知らせしますので、ご予約ください。



大出 千恵子

行事予定



ウラギンヒヨウモン そに 曾爾高原

- 第4回 定例自然観察会
里山の自然 四條畷・下田原
 ～里山の樹木・野草・キノコ～
 ◇日時: 9月23日(月・振休)
 9:30～15:00 雨天中止
 ◇集合: 飯盛霊園バス停付近 9時30分
 ◇持ち物: 弁当、水筒、雨具、帽子など
 身近な自然ガイドブック「里山を歩こう」
 ◇案内: 田中英明さん 上田 豪さん

- 第5回 定例自然観察会
深北緑地 昆虫観察
 ～昆虫さがし・バッタ飛ばし・バッタクイズ～
 ◇日時: 10月6日(日) 9:30～12:00 雨天中止
 ◇集合: 深北緑地管理事務所前
 (第1駐車場横) 9時30分
 ◇場所: 緑地内・深野池付近
 ◇持ち物: 網、虫かご、水筒、帽子など
 身近な自然ガイドブック「虫をさがそう」
 ◇案内: 高本憲二さん

- 第6回 定例自然観察会
深北緑地 どんぐりウォッチング
 ～どんぐり拾い・どんぐり工作ほか～
 ◇日時: 11月2日(土) 9:30～12:00 雨天中止
 ◇集合: 深北緑地管理事務所前
 (第1駐車場横) 9時30分
 ◇コース: 緑地内 ロケット広場 深野池ほか
 ◇持ち物: 水筒、雨具、筆記用具など
 身近な自然ガイドブック「秋のどんぐり」
 ◇案内: 木村雅行さん



シモツクソウ 伊吹山

みんなの掲示板・自然観察会

第4回 交野・河内森～シダの観察～
 ◇日時: 10月14日(月・祝) 9:30～12:00
 ◇集合: 京阪交野線河内森駅 9時30分
 ◇持ち物: 水筒、帽子、雨具など
 ◇案内: 天野史郎さん
 ◇下見: 10月2日(水) 日程は当日と同じ

第5回 兵庫・豊岡
 ～コウノトリの郷公園・玄武洞～
 ◇日時: 11月26日(火) 8:00～17:30
 ◇集合: 京阪寝屋川市駅東側
 アルカスホール前 午前8時
 ◇持ち物: 弁当、水筒、雨具など
 ◇参加費: 7,000円程度(入園料含む)25名
 ◇参加申込: 11月14日(木)までに
 中村 (090-8750-5738)
 千田 (090-4036-0719) いずれかへ
 *マイクロバスを利用します。

□野外活動センターの自然観察と環境整備

◇日時: その②: 10月11日(金) 10:00～14:00
 その③: 12月3日(火) 10:00～14:00
 ◇集合: 野外活動センター 10時
 ◇持ち物: 帽子、水筒、雨具など
 ◇内容: 自然観察と環境整備
 *お楽しみ昼食あり
 ◇参加申込:
 その②: 10月7日(月)までに
 その③: 11月28日(木)までに
 千田 (090-4036-0719)
 東森 (090-5645-1531) いずれかへ

編集後記

7月、8月と暑い日が続き、熱中症で心配な日もありましたが、予定しておりました活動について計画通り進めることができました。記事の通り子ども達も多くのプログラムにチャレンジしていました。

いよいよ秋、色々な計画があります。秋の虫、木の葉、木の実など自然と遊び、みんなで自然体験を広げましょう。

*会報全ページカラー版(PDF版)は本会HP(右の二次元コード)からダウンロードを。

